

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2192200026		
法人名	株式会社 共寿		
事業所名	グループホーム千本松「福寿苑」 なごみ		
所在地	岐阜県海津市海津町福江639-1		
自己評価作成日	平成22年10月30日	評価結果市町村受理日	平成23年1月19日

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://kouhyou.winc.or.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=2192200026&SCD=320
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 旅人とたいようの会
所在地	岐阜県大垣市伝馬町110番地
訪問調査日	平成22年12月24日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者の皆さんが生き生きとした顔、素敵な笑顔が自然とあふれて、嬉々とした生活を送っていただくように支援できればと職員が共通した思いでいっぱいです。また物質的な面だけにとらわれず、創意工夫し心のこもった、心の通った寄り添うケアに努めて生きたいと思えます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

ホーム玄関に古木のオブジェを飾り、居間は高天井に長提灯の照明など和風で、利用者の生活歴にあわせ馴染みやすい生活環境の工夫がある。日常の暮らしは、趣向や意向に合わせ図書館や喫茶店、自宅に柿やみかんの収穫に出かける支援をしている。地域の保育園の運動会には利用者の参加できる種目の用意があり、園児と地域の人と一緒に楽しむひと時を過ごしている。利用者・家族の満足度アンケートを収集し運営に反映させ、職員の質の向上を図っている。また、周辺に病院や温泉があり、同法人のホームも隣接し、増設中のホームがあるなど、今後、福祉ゾーンの一部として地域と触れ合いを深めることができる楽しみなホームである。

・サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 該当するものに印	項目	取り組みの成果 該当するものに印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

なごみ

〔セル内の改行は、(Alt+)- + (Enter+)-です。〕

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営					
1	(1)	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	運営の理念、職員の心得を制定している。月1回以上の職員会議の冒頭に全職員によって、運営理念、職員の心得を朗唱すると共に理念の共有や介護に関する意識の高揚に努めている。	職員一人ひとりが理念を確認し、利用者と最後までその人らしく生きられることを会議の席でも話し合っている。憶えやすい社歌を毎朝体操前に利用者と一緒に歌っている。	
2	(2)	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域のイベントや保育園の運動会などに参加している。また、地域の民謡クラブ、大正琴クラブ、落語研究会等々の訪問をうけ、逆に保育園などへ訪問するなど、さらに地元の老人クラブとの交流を呼びかけている。	地域の一員として、小学生の下校時見守りを利用者と一緒に行っている。保育園の運動会の競技に参加したり、園児の訪問もあり楽しく交流している。老人クラブの集いに参加することも話し合っている。地域ボランティアの訪問も多い。	
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	自治会長、民生委員、老人クラブ会長、駐在所の方々に運営推進会議を通じて事業所のありようをお話し相互理解を深めるよう努めている。		
4	(3)	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議に災害時の避難の対応について意見があり、市消防署と協議し、運営推進会議の後、ご家族や関係機関の出席のもと、火災発生、通報訓練、煙の中を避難する訓練を行った。今後は地元の老人クラブを呼びかけたい	家族・老人クラブ会長などから、意見が出され話し合い協力を得ている。しかし、会議案内を地域のメンバーに手渡ししながら呼びかける努力をしているが、実を結ぶに至っていない。	地域住民を固定せず、多方面の方々に働きかけを行い、参加を促す努力を続けてほしい。
5	(4)	市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議に高齢福祉課及び消防署幹部の出席のもと利用者の生活の様子やアクシデントを報告し、提言や指導を受けている。	入居・更新書類の提出や、困難事例の相談などに出かけた際に、担当者で話し合っている。また、運営推進会議の協力など関係づくりに取り組んでいる。	
6	(5)	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束について、職員会議を通じて話し合い職員全員が弊害を理解し取り組むよう今後も継続していきたい。また、玄関の自動ドアは事業所周辺は水路や幹線道路が多く、さらに無断外出も見受けられることから番号ロックしている。	身体拘束の弊害を理解し、家族にも説明し同意を得ている。利用者の仕草・外出の気配などで職員は察知し散歩に誘っている。しかし、立地条件・環境・安全を重視し、玄関の自動ドアロックを完全に外すには至っていない。	更にドアロックを外す工夫を全職員で検討されることを期待したい。
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	幹部職員の高齢者虐待防止についての研修会のもと職員会議で発表し全員でミーティング等を行い理解浸透や遵守に向けた取組を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度の研修会により、該当する利用者及び保護者にアドバイスした後、行政書士及び公証役場へ出向かれ対応された事例がある。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には事業者のケアに関する取り組み、医療の連携体制、利用料のシステム、また退所を含めた事業所の対応可能な範囲について詳しく説明し理解を得られるように努めている。		
10	(6)	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者アンケートのもと、職員会議でその結果を全員でミーティングし、ご家族や利用者の思いを共有する事ができた。また何でも言ってもらえるような雰囲気づくりに留意し、出された声にはケアに反映できるように職員全員で努めたい。	家族満足度アンケートを集計し全職員で検討している。家族の訪問時に利用者のホームでの様子を話しながら、意見を聞いている。「中庭に椅子があれば」の提案に直に対応するなど運営に反映させている。	
11	(7)	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ミーティングや職員会議、個別面談を行い意見や提言を聞くようにしている。また日頃から管理者が積極的に声をかけ、意見の言いやすい雰囲気づくりに心掛けている。	管理者は職員の様子を察知し声をかけたり、心理面などの相談にのっている。資格取得にも勤務体制を整え、意欲的に働ける環境作りをしている。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員会議において、就業規則及びキャリアパスの改正点を説明し、職員の研修会への参加及び資格取得に向けた支援を行い、人材育成、能力開発のための体制を示し職場内で活かせるよう労働環境づくりに努めている。		
13		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修の情報を収集し、職員に応じた研修機会を得るようにしている。また必ず職員会議で研修結果について報告を受け、全職員が内容に共有できるように努めている。		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	介護支援専門員連絡会で多くの情報を得るように努めている。その会議のもちかたもグループワーク中心の会議となり異業種の職員の交流も深めることができ、サービスの質の向上に努めることができる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前面談で今日までの家族関係や生活歴、病歴を把握するように努め、ご本人やご家族の思いをケア及び生活に活かせるよう関係づくりに努めている。		
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	これまでのご家族の苦労や今までのサービスの利用状況など、また経緯についてお話を伺い事業所としてどのような対応ができるかなど、次の段階の相談につなげている。		
17		初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談時、ご本人やご家族の思い、状況を確認し、改善に向けた支援の提案、相談を繰り返すなかで信頼関係を築きながら必要なサービスにつなげるようにしている。		
18		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	人生の先輩であるという認識を職員は共有しており、普段から利用者に教えてもらう場面が多い。また毎日の生活の中で、そういった場面が多く持てるような関係を築きたいと思っている。		
19		本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	職員は家族の思いに寄り添いながら、日々の暮らしの出来事や気づきの情報を共有し、ご本人と一緒に支えるとの観点から信頼関係を継続するよう努力をしていきたい。		
20	(8)	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	地域に暮らす馴染みの知人、友人等に電話をかけたリ、継続的な交流が途絶えないよう支援していきたい。	利用者の希望で、人に任せた店舗を定期的に見に行ったり、喫茶店・病院で馴染みの人に会う機会を作るなどしている。電話をかける・手紙を書くなどの手伝いをし、関係が途切れないようにしている。	
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	個別に話を聞いたり、相談に乗ったり、みんなで楽しく過ごす時間や気の合うもの同士の関係が上手くいくよう職員が調整役になり、また、注意深く見守るようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他に移られた方にも、これまでの暮らしの継続性が損なわれないように、これまでの生活環境、支援の内容等々情報提供し、きめ細かい連携を心がけている。		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の生活の中で、声かけや雑談、言葉や表情などからその真意を推し測ったり、それとなく確認をするようにしている。意思疎通が困難な方には、ご家族等からの情報を得るようにしている。	自宅に柿・みかんを取りに行きたい、漬物をつけたいなど、利用者一人ひとりの声かけの仕方(ヒント)を工夫し意向の把握に努めている。また、将棋・囲碁をしたい男性利用者には、中学生の職場体験で意向を叶えている。	
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人のバックグラウンドを知れば知るほど、その人の理解につながっている。この取り組みは大変重要なことと考え、ご本人をはじめ、ご家族や地域の人の力を借りながら継続的に行っている。		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ご利用者一人ひとりの生活リズムを把握理解すると共に、行動や小さな言葉、動作の中から感じ取り、ご本人の全体像を把握している。		
26	(10)	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人やご家族には日頃のかかわりの中で思いや意見を聞き介護計画に反映させるようにしている。アセスメントを含め職員会議の中で全員で話し合いモニタリングをおこなっている。	担当職員が本人・家族に尋ね、介護日誌をもとに会議で全職員が話し合い、毎月介護計画を見直している。ケアマネジャーが最終的にまとめ家族の同意を得ている。	
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別にファイルを持ち、食事、水分量、排泄等、さらに身体的状況及び日々の暮らしの様子やご本人の言葉、エピソード等を記録している。何時でも職員が確認すると共に状況を共有するよう徹底している。		
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人、ご家族の状況に応じて、通院及び公共機関への送迎など必要な支援は柔軟に対応し、個々の満足度を高めるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議に行政、消防署、自治会長、民生委員、老人クラブ会長、駐在所等に参加を呼びかけ周辺情報や支援に関する情報交換、協力関係を築いていきたい。		
30	(11)	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	事業所の協力医のほか、利用前からのかかりつけの歯医者等での治療を受けられるなど、ご家族と連携し通院介助を行ったり、複数の医療機関と関係を密に結んでいる。	かかりつけ医受診は家族・医療関係者と連携しながら歯科・眼科などへ職員が代行している。受診結果は申し送りノートで職員が共有している。協力医の往診日をユニットごとに掲示し、利用者や家族に知らせ適切な医療を受けられるよう支援している。	
31		看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師を配置しており、常に利用者の健康管理や相談事、状況変化に応じた支援を行うようにしている。看護師がいないときは介護職員の記録をもとに確実な連携を行うようにしている。		
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院によるダメージを極力防ぐため医師と連絡連携のもと情報提供するとともに、看護師や介護職員も見舞うようにしている。またご家族とも回復状況等情報交換しながら速やかな退院支援に結び付けている。		
33	(12)	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご家族の意向を踏まえ、医師、事業所が連携をとり、安心して納得した最期を迎えられるよう意思を確認しながら取り組んでいる。また日頃からご家族との信頼関係が増幅するよう心掛けている。	入居時に「看取りに関する指針」について話し合っている。状態の変化に応じて、医師や家族など関係者と話し合い「緊急時の対応」の同意書を交わしている。看護師が中心となり終末期の体制を作り、適切な医療が受けられるよう支援し、家族の宿泊の準備もしている。	
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救急車が到着する前の応急処置や準備すべきことについて、ケースを想定しながら勉強会や話し合いを職員会議の中で行っている。		
35	(13)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署のご指導のもと、火災通報訓練、煙の中を避難する訓練、さらに消火器の操作訓練等をご家族や近隣の役員さんの参加のもと、運営推進会議の後に行っている。	運営推進会議のメンバーにも参加を促し、消防署の協力を得て、火災通報訓練・煙の中の避難訓練を実施している。独自に夜間想定訓練も実施している。避難場所や備蓄の確認もしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者の情報収集や外部との情報連携の際には、その情報の個別性や守秘義務について充分理解し、責任ある取り扱いをしている。	排泄・入浴介助など利用者一人ひとりのプライバシーに配慮した対応や声かけをしている。また、書類の扱いも慎重にし、利用者や家族の守秘義務に心がけている。	
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者には声をかけ、意思表示ができない人には表情を読み取ったり、些細なことでも、ご本人が決められるよう場面をつくっている。図書館や喫茶店へ行ったりするなど一日を楽しまれるよう支援している。		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な一日の流れはもっているが、時間にこだわる過ごし方はしないようにしている。一人ひとりの体調に合わせ、その日、その時のご本人の気持ちに尊重し、できるだけ個別性を大事に支援している。		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	個々の生活習慣に合わせ、おしゃれ等を楽しめるよう、ご家族と連絡を取りあい季節にあったものを着ていただくように支援している。また美容院とも連携し、ご本人の希望にあわせたカットなども取り入れるようにしている。		
40	(15)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	美味しいものを楽しく食べるを基本に、個々の好みや苦手なものを踏まえたメニューを工夫し、職員と利用者が同じテーブルを囲んで楽しく食べる雰囲気づくりを大切にしている。	頂き物の野菜の下ごしらえを利用者から教わりながらしている。個々のペースにあわせ一緒に食べている。食が進まない利用者には居室に届けたり、状態に合わせてミキサー食から形ある食事にしていく。誕生会は赤飯で祝ったり、時には外食や特別献立で楽しんでいる。	
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの体調と一日の摂取量を把握し、また医師より個別に補食品を出している方も、これだけには頼らず、ご本人の好きな物や食べやすい物を大切にお出ししている。		
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	ご自分で出来る方は声かけ見守りをし、できない方には毎食後のケアを行い、嚥下障害による肺炎の防止などにも努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	自尊心に配慮し、ご利用者の様子から敏感に察知し、身体機能に応じて手を差し伸べたり歩行介助をしている。トイレでの排泄を大事にしながら、紙パンツ、パット類もご本人に合わせて随時支援している。	一人ひとりの排泄のパターンを把握し、個々にあったトイレ誘導をしている。、昼間は状態によっては2人介助をして、できるだけトイレでの排泄を支援している。夜間はポータブルを使用する人もある。	
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や腸の働きをよくするため、外出や散歩などに積極的に誘っている。		
45	(17)	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	ご利用者のその日のお気持ちや体調に配慮しながら、安心感をもって、またゆっくり楽しく入浴していただくよう心掛けている。	一人ひとりの希望や状態にあわせ、個浴・特浴をしている。拒否があっても時間をずらしたり、翌日にして楽しく入浴できる声かけや工夫をしている。時には体調にあわせて清拭や部分浴をしている。	
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	なるべく日中の活動を促し、生活リズムを整えるよう努め、一人ひとりの体調やサインや表情を考慮して、不安なく安心してゆったり就寝されるよう支援している。		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の処方や容量が変更されたり、ご本人の状態変化が見られるときは、記録すると共に看護師や医療機関との連携を図れるようにしている。		
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	得意分野で一人ひとりの力を発揮してもらえるよう出来る(洗濯、たたみ、お盆拭きなど)ことはやっていただいている。また図書館など外出や地域の行事などにもご利用者と相談しながら積極的に参加している。		
49	(18)	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	一人ひとりの習慣や楽しみごとに合わせて図書館や喫茶店、また、お弁当を持って花見やドライブなどに出来るだけ多く外出できるよう支援している。	定期的に図書館にでかけ本を借りたり、喫茶店に寄ってお茶を楽しむ支援をしている。また、季節に合わせてコスモス、チューリップを見に全員でお弁当を持って出かけ、楽しいひと時を過ごせるよう支援している。中庭のデッキに出て外気に触れ、歌ったりおしゃべりしている。	

グループホーム 千本松「福寿苑」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭の所持については、ご家族ごとにさまざまな意向をもたれている。ご本人の思いや安心に向けて所持したい旨の要求があれば、ご家族と相談し少額を持っていただくよう支援している。		
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族や大切な人に自ら電話できるようにしている。また、手紙やはがきの返信が出来るように応援していきたい。		
52	(19)	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングの飾り付けやテーブル等の配置などは皆さんとの話し合いのもと、居心地が満足できるようにしている。また自分の住んでいる家だという認識が高められるよう、帰ってきた時は自然とただいまの声が出るようにしていきたい。	天井が高く提灯風の照明、居室玄関はひさしがある。畳みの居間には掘りごたつがある。中庭は石庭・灯籠で全体が和風作りに設計し、落ち着いて暮らせる工夫をしている。温度・臭気など気にならない配慮がある。利用者の能力を引き出し、季節の花を生ける支援をしている。	
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	廊下や居間、また中庭には椅子や長椅子を配置し、一人で過ごしたり、仲の良い入居者同士がくつろげるスペースに配慮している。		
54	(20)	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には、ご本人やご家族と相談しながら使い慣れたもの、また写真や思い出の品々を飾っていただき、不安なくゆったりと楽しい生活が出来るよう心掛けている。	主人の位牌・家族写真や着替え・外出用の上着など、使いやすい配置にしている。また、手の届く位置に計算ドリルを置いたり、家族と相談しながら落ち着いて暮らしやすい居室となるよう工夫している。	
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ご利用者にとって、何がわかりにくいのか、どうしたらご本人の力でやっていただけるかを追求し、状況にあわせて環境整備に努め、不安や混乱材料を取り除き自立支援につなげている。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2192200026		
法人名	株式会社 共寿		
事業所名	グループホーム千本松「福寿苑」 やすらぎ		
所在地	岐阜県海津市海津町福江639-1		
自己評価作成日	平成22年10月30日	評価結果市町村受理日	平成23年1月19日

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://kouhyou.winc.or.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=2192200026&SCD=320
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 旅人とたいようの会		
所在地	岐阜県大垣市伝馬町110番地		
訪問調査日	平成22年12月24日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--

サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 該当するものに 印	項目		取り組みの成果 該当するものに 印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価結果

やすらぎ

(セル内の改行は、(Altキ-) + (Enterキ-)です。)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営					
1	(1)	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	運営の理念、職員の心得を制定している。月1回以上の職員会議の冒頭に全職員によって、運営理念、職員の心得を朗唱すると共に理念の共有や介護に関する意識の高揚に努めている。		
2	(2)	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域のイベントや保育園の運動会などに参加している。また、地域の民謡クラブ、大正琴クラブ、落語研究会等々の訪問をうけ、逆に保育園などへ訪問するなど、さらに地元の老人クラブとの交流を呼びかけている。		
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	自治会長、民生委員、老人クラブ会長、駐在所の方々に運営推進会議を通じて事業所のありようをお話し相互理解を深めるよう努めている。		
4	(3)	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議に災害時の避難の対応について意見があり、市消防署と協議し、運営推進会議の後、ご家族や関係機関の出席のもと、火災発生、通報訓練、煙の中を避難する訓練を行った。今後は地元の老人クラブを呼びかけたい		
5	(4)	市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議に高齢福祉課及び消防署幹部の出席のもと利用者の生活の様子やアクシデントを報告し、提言や指導を受けている。		
6	(5)	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束について、職員会議を通じて話し合い職員全員が弊害を理解し取り組むよう今後も継続していきたい。また、玄関の自動ドアは事業所周辺は水路や幹線道路が多く、さらに無断外出も見受けられることから番号ロックしている。		
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	幹部職員の高齢者虐待防止についての研修会のもと職員会議で発表し全員でミーティング等を行い理解浸透や遵守に向けた取組を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度の研修会により、習得した事例等に該当する利用者及び保護者はないように思われる。今後も幅広く正確に支援できるようにしていきたい。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には事業者のケアに関する取り組み、医療の連携体制、利用料のシステム、また退所を含めた事業所の対応可能な範囲について詳しく説明し理解を得られるように努めている。		
10	(6)	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者アンケートのもと、職員会議でその結果を全員でミーティングし、ご家族や利用者の思いを共有する事ができた。また何でも言ってもらえるような雰囲気づくりに留意し、出された声にはケアに反映できるように職員全員で努めたい。		
11	(7)	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ミーティングや職員会議、個別面談を行い意見や提言を聞くようにしている。また日頃から管理者が積極的に声をかけ、意見の言いやすい雰囲気づくりに心掛けている。		
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員会議において、就業規則及びキャリアパスの改正点を説明し、職員の研修会への参加及び資格取得に向けた支援を行い、人材育成、能力開発のための体制を示し職場内で活かせるよう労働環境づくりに努めている。		
13		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修の情報を収集し、職員に応じた研修機会を得るようにしている。また必ず職員会議で研修結果について報告を受け、全職員が内容に共有できるように努めている。		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	介護支援専門員連絡会で多くの情報を得るように努めている。その会議のもちかたもグループワーク中心の会議となり異業種の職員の交流も深めることができ、サービスの質の向上に努めることができる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前面談で今日までの家族関係や生活歴、病歴を把握するように努め、ご本人やご家族の思いをケア及び生活に活かせるよう関係づくりに努めている。		
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	これまでのご家族の苦労や今までのサービスの利用状況など、また経緯についてお話を伺い事業所としてどのような対応ができるかなど、次の段階の相談につなげている。		
17		初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談時、ご本人やご家族の思い、状況を確認し、改善に向けた支援の提案、相談を繰り返すなかで信頼関係を築きながら必要なサービスにつなげるようにしている。		
18		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	人生の先輩であるという認識を職員は共有しており、普段から利用者に教えてもらう場面が多い。また毎日の生活の中で、そういった場面が多く持てるような関係を築きたいと思っている。		
19		本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	職員は家族の思いに寄り添いながら、日々の暮らしの出来事や気づきの情報を共有し、ご本人と一緒に支えるとの観点から信頼関係を継続するよう努力をしていきたい。		
20	(8)	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	地域に暮らす馴染みの知人、友人等に電話をかけたたり、継続的な交流が途絶えないよう支援していきたい。		
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	個別に話を聞いたり、相談に乗ったり、みんなで楽しく過ごす時間や気の合うもの同士の関係が上手くいくよう職員が調整役になり、また、注意深く見守るようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他に移られた方にも、これまでの暮らしの継続性が損なわれないように、これまでの生活環境、支援の内容等々情報提供し、きめ細かい連携を心がけている。		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の生活の中で、声かけや雑談、言葉や表情などからその真意を推し測ったり、それとなく確認をするようにしている。意思疎通が困難な方には、ご家族等からの情報を得るようにしている。		
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人のバックグラウンドを知れば知るほど、その人の理解につながっている。この取り組みは大変重要なことと考え、ご本人をはじめ、ご家族や地域の人々の力を借りながら継続的に行っている。		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ご利用者一人ひとりの生活リズムを把握理解すると共に、行動や小さな言葉、動作の中から感じ取り、ご本人の全体像を把握している。		
26	(10)	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人やご家族には日頃のかかわりの中で思いや意見を聞き介護計画に反映させるようにしている。アセスメントを含め職員会議の中で全員で話し合いモニタリングをおこなっている。		
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別にファイルを持ち、食事、水分量、排泄等、さらに身体的状況及び日々の暮らしの様子やご本人の言葉、エピソード等を記録している。何時でも職員が確認すると共に状況を共有するよう徹底している。		
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人、ご家族の状況に応じて、通院及び公共機関への送迎など必要な支援は柔軟に対応し、個々の満足度を高めるようにしている。		

グループホーム 千本松「福寿苑」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議に行政、消防署、自治会長、民生委員、老人クラブ会長、駐在所等に参加を呼びかけ周辺情報や支援に関する情報交換、協力関係を築いていきたい。		
30	(11)	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	事業所の協力医のほか、利用前からのかかりつけの歯医者等での治療を受けられるなど、ご家族と連携し通院介助を行ったり、複数の医療機関と関係を密に結んでいる。		
31		看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師を配置しており、常に利用者の健康管理や相談事、状況変化に応じた支援を行うようにしている。看護師がいないときは介護職員の記録をもとに確実な連携を行うようにしている。		
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院によるダメージを極力防ぐため医師と連絡連携のもと情報提供するとともに、看護師や介護職員も見舞うようにしている。またご家族とも回復状況等情報交換しながら速やかな退院支援に結び付けている。		
33	(12)	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご家族の意向を踏まえ、医師、事業所が連携をとり、安心して納得した最期を迎えられるよう意思を確認しながら取り組んでいる。また日頃からご家族との信頼関係が増幅するよう心掛けている。		
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救急車が到着する前の応急処置や準備すべきことについて、ケースを想定しながら勉強会や話し合いを職員会議の中で行っている。		
35	(13)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署のご指導のもと、火災通報訓練、煙の中を避難する訓練、さらに消火器の操作訓練等をご家族や近隣の役員さんの参加のもと、運営推進会議の後に行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者の情報収集や外部との情報連携の際には、その情報の個別性や守秘義務について充分理解し、責任ある取り扱いをしている。		
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者に声をかけ、意思表示ができない人には表情を読み取ったり、些細なことでも、ご本人が決められるよう場面をつくっている。図書館や喫茶店へ行ったり、計算ドリルに挑戦するなど一日を楽しまれるよう支援している。		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な一日の流れはもっているが、時間にこだわる過ごし方はしないようにしている。一人ひとりの体調に合わせ、その日、その時のご本人の気持ちを尊重し、できるだけ個別性を大事に支援している。		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	個々の生活習慣に合わせ、おしゃれ等を楽しめるよう、ご家族と連絡を取りあい季節にあったものを着ていただくように支援している。また美容院とも連携し、ご本人の希望にあわせたカットなども取り入れるようにしている。		
40	(15)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	美味しいものを楽しく食べるを基本に、個々の好みや苦手なものを踏まえたメニューを工夫し、職員と利用者が同じテーブルを囲んで楽しく食べる雰囲気づくりを大切にしている。		
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの体調と一日の摂取量を把握し、また医師より個別に補食品を出している方も、これだけには頼らず、ご本人の好きな物や食べやすい物を大切にお出しするようにしている。		
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	ご自分で出来る方は声かけ見守りをし、できない方には毎食後のケアを行い、嚥下障害による肺炎の防止などにも努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	自尊心に配慮し、ご利用者の様子から敏感に察知し、身体機能に応じて手を差し伸べたり歩行介助をしている。トイレでの排泄を大事にしながら、紙パンツ、パット類もご本人に合わせて随時支援している。		
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や腸の働きをよくするため、外出や散歩などに積極的にお誘いしている。		
45	(17)	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	ご利用者のその日のお気持ちや体調に配慮しながら、安心感をもって、またゆっくり楽しく入浴していただくよう心掛けている。		
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	なるべく日中の活動を促し、生活リズムを整えるよう努め、一人ひとりの体調やサインや表情を考慮して、不安なく安心してゆったり就寝されるよう支援している。		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の処方や容量が変更されたり、ご本人の状態変化が見られるときは、記録すると共に看護師や医療機関との連携を図れるようにしている。		
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	得意分野で一人ひとりの力を発揮してもらえるよう出来る(洗濯、たたみ、お盆拭きなど)ことはやっけていただいている。また図書館など外出や地域の行事などにもご利用者と相談しながら積極的に参加している。		
49	(18)	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	一人ひとりの習慣や楽しみごとに合わせて図書館や喫茶店、また、お弁当を持って花見やドライブなどに出来るだけ多く外出できるように支援している。		

グループホーム 千本松「福寿苑」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭の所持については、ご家族ごとにさまざまな意向をもたれている。ご本人の思いや安心に向けて所持したい旨の要求があれば、ご家族と相談し少額を持っていただくよう支援している。		
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族や大切な人に自ら電話できるようにしている。また、手紙やはがきの返信が出来るように応援していきたい。		
52	(19)	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングの飾り付けやテーブル等の配置などは皆さんとの話し合いのもと、居心地が満足できるようにしている。また自分の住んでいる家だという認識が高められるよう、帰ってきた時は自然とただいまの声が出るようにしていきたい。		
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	廊下や居間、また中庭には椅子や長椅子を配置し、一人で過ごしたり、仲の良い入居者同士がくつろげるスペースに配慮している。		
54	(20)	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かし、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には、ご本人やご家族と相談しながら使い慣れたもの、また写真や思い出の品々を飾っていただき、不安なくゆったりと楽しい生活が出来るよう心掛けている。		
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ご利用者にとって、何がわかりにくいのか、どうしたらご本人の力でやっていただけるかを追求し、状況にあわせて環境整備に努め、不安や混乱材料を取り除き自立支援につなげている。		